

日中同形語

——その学習着眼点と教授法——

顧 令 儀

要旨 关于中日同形词的问题，至少近三十年来，有过不少研究成果。本文不就一定数量的中日同形词做具体的分析比较，而是着重探讨对中日同形词进行分析比较时，可以从哪些角度考察、研究。从而总结出学习中日同形词时应该着眼于哪些地方，讲授中日同形词时应该突出那些地方。本文通过典型词例，提出分析研究的角度可以有：字形、结构、语法意义和词汇意义几个方面。在进行对日汉语教学或对中日语教学时，通过这种分类教授中日同形词，可以帮助教师明确重点，可以帮助学生掌握方法，从而可以在一定程度上提高效率，改进教学。

キーワード 同形词 分析角度 字形 结构 语法意义 词汇意义

はじめに

日本も中国も漢字を使う国であって、同じ字形の言葉——いわゆる日中同形語——も時々見られる。これによって、中国へ旅行に行く日本人も日本に旅行に来る中国人も異国感がだいぶ薄らいでくる。「銀行」（中国語では字形が多少違って、「銀行」と書く）を見たら、bankよりは親しみを感じるだろう。日本人が中国語を習うとき、また中国人が日本語を習うとき、日中同形語のことを活用できれば、語彙量を増やすにはプラスになることは間違いない。ということもあって、日中同形語については、だいぶ前から注目されてきて、論文など研究成果もたくさんある。

日中同形語を研究する場合、その範囲をどう画定するか、まず決めなければならぬ。本稿では、漢字音読み二字語と対応できる中国語二字語に絞って、研究していく。

本稿は具体的な語彙対照より、同形語のタイプを着眼点にして、分析角度を論じていくことにする。どのタイプにどんな特質があるかは、日中同形語を学習する時の着眼点に、また当然、教える時の重点にもするべきだろう。

語義の解説記述については、本稿は複数の辞書のもを対照しながら利用する。言語生活の実情と少しでも一致していないところがあれば、いっさい採用せず、原則上、実例を挙げないことにする。

日中同形語といっても字形は必ずしも同じとは限らない

漢字で書いた言葉ならば、読み方、字形、意味と三つの側面から見ることができる。日中語彙対照をする場合、読み方はまず検討対象にならないので、字形、意味両面から考えることとなる。

同形語は文字通り字形の同じ語のはずである。といっても、ここでいう字形は、およそのことに過ぎない。多少違いがあるものが大多数で、かなり異なっているものも相当多い。それのみならず、ほとんど異なっているものや全然違う感じがするものさえある。これは、当該漢字のどの字体を標準と認めるか、当該漢字を簡略化するかどうか、簡略化する方法が一致しているかどうかなどによって生じたものである。

例えば「窓」と“窗”は、“窗”が象形文字から移り変わってきたものであるが、昔から、“窓”“牕”“窻”“牕”などの書き方と共存していた。一つに絞って標準字体を定めるとき、日本は「窓」、中国は“窗”を標準字体とし、ほかの書き方を異体字とすることにした。文字が違うが、本来同一漢字の違う書き方だから、同一漢字と認めて、同形語と見なしても無理はないだろう。

「骨」と“骨”、「直」と“直”、「角」と“角”、「灰」と“灰”などは、書き方が同じとは言えないだろう。場合によって面数も違うのである。実は、

これは単純に、標準字体の決め方によるもので、実際書く場合、大きな違いは感じられないだろう。手書きの様子を考えてみれば、同形とみなすことは納得できないこともなかろう。

日中漢字の字形の異同を大きくしたのは、漢字の簡略化だと思われる。両国ともその漢字を簡略化して、略字が完全に一致している場合もある。例えば、「学」「礼」と“学”“礼”などはあまり変わらないと思う。しかし、一方は簡略化をしているがもう一方はしていない場合や、双方とも簡略化をしているが簡略の方法が違う場合も少なくはない。このことによって、日中両国の漢字の字形は差異が大きくなってきた。例えば、「愛」と“爱”、「偉」と“伟”、「飲」と“饮”、「員」と“员”、「陰」と“阴”、「運」と“运”、“雲”と“云”、「買」と“买”、“壺”と“壺”などは前者の例で、「亜」と“亞”(亞)、「圧」と“压”(壓)、「囲」と“围”(圍)、「為」と“为”(爲)、「隠」と“隐”(隱)、「営」と“营”(營)、「衛」と“卫”(衛)、「売」と“卖”(賣)などは後者の例である。

二字以上の語の場合、以上いくつかの方法による差異の組み合わせになるから、なおさら対応関係が複雑になるわけである。例えば、「芸術」と“艺术”は、よくよく考えなければ、同形語だという判断は下しにくいかもしれない。でも、両方とも元々の漢字で書けば、「藝術」「藝術」となって、立派な同形語であろう。

日中同形語を学習、または教育を行う場合、まず、字形のことをはっきりさせるべきであって、こういう前提がなければ、同形語かどうか自体も分からなくなる。本稿ではもともとの同形語を研究対象にして、上述の異同を無視することにする。

形が同じだが、構造は必ずしも一緒ではない

「親友」という名詞はどういう意味だろうか。国語辞典ではどう説明しているかを見よう。

心から打ち解け合っている親しい友人。非常に仲のよい友人。(『ベネッ

セ表現読解国語辞典』。以下『ベネッセ』と略す)

きわめて親しい友。(『明鏡国語辞典』第2版。以下『明鏡』と略す)

小さい時は常に行動を共にし、長じては何事をも打ち明けることのできる友人。例無二の～。(『新明解国語辞典』第7版。以下『新明解』と略す)

解説の言葉はそれぞれ違うが、中核的なことを言うと、「親しい友」と言えるに違いない。言い換えれば、「親友」という言葉は、「親」が「友」を修飾するという関係になって、いわば「親」に連体修飾語の役を当てて、中心に位する名詞「友」を修飾するという構造を持っているわけである。

一方、中国語にも“亲友”(“亲”は「親」の略字)という言葉があって、その意味は、

亲戚朋友。(《现代汉语词典》第6版。以下《现汉》と略す)

亲戚和朋友。(《现代汉语规范词典》第2版。以下《规范》と略す)

亲戚朋友。(《应用汉语》。以下《应用》と略す)

となる。その意味解説を日本語に訳せば「親戚、友人」「親戚と友人」とするほかないだろう。言い換えれば、中国語の“亲”と“友”は、修飾関係ではなくて、並列関係を持っているのである。

こういった現象は日中同形語ばかりでなく、日本語同形語にも見られる。「中日新聞」にも「中日大辞典」にも「中日」という言葉が入っているが、前者は「中部日本」の意味(「中」は「日」を修飾している)で、後者は(辞書の見出し語は)「中国語」、(解釈は)「日本語」の意味(「中」「日」は並列している)である。日本人誰もが、誤解することはないものだが、構造が違う二つのことばである。

同じく二つの漢字(正確に言えば二つの形態素だが)から出来た言葉ではあるが、構造関係が異なっているので、当然、意味も違ってくるのである。

もし、このタイプの言葉が日中同形語の大半を占めるなら、お互いに、誤解ばかりとなるだろう。幸いなことは、日中同形語にはこのタイプの語はそれほど多くないのである。

構造の同じ日中同形語でも、文法的意味は必ずしも一緒ではない

言葉の意味を言ったら、普通、どのように解釈するか、どの言葉で言い換えられるか、あるいはどのように外国語に訳することができるかなどのが頭に浮かんでくるだろう。もちろん、これらは言葉の意味であるが、もう少し視野を広げて考えれば、この言葉がどのように文に用いられるか、言い換えれば、文を構成する場合、主語になるか述語になるか、述語になるなら目的語が必要かどうか、修飾語の修飾を受ける場合どのような修飾語でなければならないか、などのことも広義的な意味になるだろう。意味に含まれているこのような部分は言葉の文法的意味ということもあって、これに対して、言葉自身の意味は語彙の意味と呼ぶこともある。

日本語の「参考」と中国語の“参考”を見てみよう。

日本語の「参考」は名詞で、次のような意味になる。

〔「参」は比べ合わせる意〕〔物事の判断・決断などのために〕手掛かりや裏付け、補足として考えること。〔例〕文献の記述を～にする。友人の意見を～にする。～にならない。（『ベネッセ』）

考えをまとめたり、物事を決めたりする手掛かりとして、他人の意見や他の事例・資料などを利用すること。また、そのための材料。〔例〕先例を～にする。～文献。（『明鏡』）

①自分の考えを決めるための足しにすること（もの）。〔例〕～になる。～人。②〔研究や受験などのために〕他人の書いた書物や教科書以外の書物などを見ること。〔例〕～書。～文献。（『新明解』）

これに対応している中国語の“参考”は動詞である。

〔动〕①为了学习或研究而查阅有关资料。〔例〕～书。作者写这本书，～了几十种书刊。②在处理事务时借鉴、利用有关材料。〔例〕仅供～。～兄弟单位的经验。制定这些规章时～了群众的意见。③（＝参看②）文章注释和辞书释义用语，提示读者看了此处后再看其他有关部分。（《现汉》）

〔动〕在学习或研究问题时，参阅查考有关材料或参照有关事物。〔例〕这些建议仅供～。～一下他们的做法。（《规范》）

- ①〔動〕 査閲有关資料。例 本书～了所有有关資料。②〔動〕 研究和处理某些事物时，为了加强理解或获取更多的資料，拿另一些事物或有关材料来对照或査考。例 仅供～。～本书附录。《《应用》》

このように語彙の意味はだいたい同じであるが、文法的意味、文章における使い方は違う。

品詞から見て、日本語も中国語も同じ品詞に属するとしても、文法的意味は必ずしも同じとは言えない。例えば、「發展」と“发展”は、日本語においても、中国語においても動詞であって、語彙の意味も類似しているところがある。「發展」の意味は、

(名・自サ) ①勢いがだんだんと広がって栄えること。例 医学の～に尽くす。②物事が次の段階へ移ること。例 大事件に～する。③異性関係について盛んに行動すること。例 ～家。《『ベネッセ』》

(名・自サ) ①物事の勢いや力がのびひろがること。例 社会が～する。貴家の御～を祈ります。②より進んだ段階に移ること。例 話が思わぬ方向へ～する。③異性関係などが盛んであることを冷やかしている語。例 ～家。《『明鏡』》

(自サ) ① [なにごこからなにごこに～する] 広い範囲に広がり、より進んだ段階に進むこと。例 海外へ～する。都市の～。～を期する(図る、遂げる) 経済～。～性。～的解消。②盛んに活躍すること。例 ご～を祈る。～家。《『新明解』》

である。これと対応している“发展”は、

(動) ①事物由小到大、由简单到复杂、由低级到高级的变化。例 事态还在～。社会～規律。②扩大(组织、规模等)。例 ～党的组织。～轻纺工业。③为扩大组织而吸收新的成员。例 ～新党员。～工会会员。《《现汉》》

①(動) 事物由小到大、由简单到复杂、由低级到高级不断变化。例 小企业～成了跨国公司。②吸纳新成员，使组织的规模扩充。例 ～党员。《《规范》》

①(動) 开展；使上升。例 ～经济，保障供给。加快沿海地区的经济～。～革命势力。～大好形势。工农业蓬勃～。②扩充。例 ～组织。～新

会員。(《应用》)

となる。文法的意味から見て、日本語の「発展」は名詞、自動詞で、中国語の“发展”は名詞、他動詞である。語彙の意味から見て、日本語の「異性関係について盛んに行動すること」と中国語の“为扩大组织而吸收新的成员”(組織を拡大させるため新しいメンバーを吸収する——筆者訳)はそれぞれ特有の意味で、対応しない部分がある。

もう一つの例、日本語の「丈夫」と中国語の“丈夫”を見てみよう。日本語の「丈夫」には、「じょうふ」「じょうぶ」と二通りの読みがあり、二者の間には直接関係を持っていないようである。前者はそんなに使われていないのに対して、後者は日常よく使われているもので、頻度が非常に高い常用語であることは間違いない。前者の意味は、

[中国古代の周の制度で、青年男子の身長を1丈としたことから] 責任と自覚をもって行動する、一人前の男子。ますらお。(『新明解』)

であり、後者は形容動詞で、次の意味を持っている。

①元気で病気やけがをしない。例～に育つ。足腰が～だ。②しっかりしていて壊れにくい。例～な机。(『ベネッセ』)

①体が健康で、病気にかかりにくいさま。達者なさま。例子供が～に育つ。②しっかりしていて、壊れにくいさま。例～な柱。(『明鏡』)

①体の各部分に異常がなく、病気にならない様子だ。達者。②[物が]しっかりしていて、すぐに崩れたり、壊れたりはしない様子だ。例～な箱(布地)。(『新明解』)

「丈夫」と対応している中国語の同形語“丈夫”は、

①成年男人。例 伟～。～气。②男女两人结婚后，男子是女子的丈夫。(《现汉》)

①成年男人。例 男子汉大～。②女子的配偶。(《规范》)

①成年的男人。例 男子汉大～。大～志在四方。～有泪不轻弹。②女子的配偶。(《应用》)

である。中国語の“丈夫”の①は、日本語の「じょうふ」に対応しているが、最も常用されている②は日本語の「じょうぶ」とは全く別の感じがする

だろう。日本語の「じょうぶ」はふつう、連体修飾語、連用修飾語、述語とされるが、中国語の“丈夫”は「夫」の意味で、述語に使うことはない。字形は同じだが、文法的意味も語彙の意味も異なっている。

結論を言うと、構造の同じ日中同形語でも、文法的意味は必ずしも同じではない。そのため、語彙の意味も違ってくる。場合によって、まったく無関係な感じがすることもある。

構造も同じ、文法的意味も同じ日中同形語には、語彙の意味もかなり一致するものがある

構造も同じ、文法的意味も同じ日中同形語ならば、もちろん語彙の意味も同じことがある。例えば、日本語の「医学」と中国語の“医学”、日本語の「空気」と中国語の“空气”、日本語の「財産」と中国語の“财产”などである。具体的に見てみよう。

日本語の「医学」は、

人体の機構を調べ、病気やけがの治療や予防、または健康保持について研究する学問。(例略) (『ベネッセ』)

人体 (の病気・健康) についての諸現象を探求し、治療法・予防法などの技術を研究する学問。(例略) (『明鏡』)

病気の原因やその治療・予防の方法を研究する学問。(例略) (『新明解』)

という意味で、中国語の“医学”は、

以保护和增进人类健康、预防和治疗疾病为研究内容的科学。(《现汉》)

以预防和治疗疾病、保护和增进人类健康为研究内容的科学。(《规范》)

以保护和增进人类健康、预防和医治疾病为研究内容的科学。(分類などについての解説を略す) (《应用》)

となる。両者を比べれば、語義説明は多少違うが、指しているものは同じであることが分かる。

「空気」の例で見えてみよう。

①地球の表面をおおう大気の下層に位置する無色透明な気体。主として酸素と窒素とからなる。②その場の周辺から共通して感じとれる気分。例 なごやかな～。気まずい～。(『ベネッセ』)

①地球の表面をおおう大気圏の下層部分を構成する無色透明の混合気体。窒素と酸素を主成分とし、微量の二酸化炭素・アルゴン・ヘリウムなどを含む。(例略) ②その場の雰囲気。例 気まずい～が流れる。(『明鏡』)

①地球上の大部分の生物がそれを吸って生きている気体。無色・無臭・透明で、地球全体をおおい包む。(例略) ②その場の人たちを支配する志向のあり方(雰囲気)。(例略) (『新明解』)

一方、中国語の“空气”は、

①弥漫于地球周围的混合气体。主要成分为氮和氧，另外还有水蒸气、二氧化碳、稀有气体等。②指气氛。例 让紧张～缓和下来。(《现汉》)

①构成地球周围大气的气体，无色，无味，主要成分是氮气和氧气，还有极少量的氢、氦、氖、氩、氙、氡等稀有气体和水蒸气、二氧化碳等。②气氛。例 学习～浓厚。不要人为地制造紧张～。(《规范》)

①构成地球周围大气的气体。(例略) ②一定环境中的情势或情调；气氛。(例略) ③指某种流行一时的风气。(例略) ④比喻为了某种需要而透露或散布出来的消息、言论等。(例略) (《应用》)

となり、語彙的意味についての記述説明のみならず、語義項目の分け方さえほぼ同じである。

日本語の「財産」は、

自分自身が蓄積したり親などから譲り受けた金銭、またはそれと等価値を有する土地・家屋・宝石など。[広義では、文化遺産をも含む] (例略) (『新明解』)

①個人や団体などが所有する金銭・不動産・有価証券・品物など経済的に価値のあるもの。②非常に大切に価値があると感じられるもの。例 家族は私の～です。健康が～だ。澄んだ海は人類の～だ。(『ベネッセ』)

個人や団体が所有する金銭・有価証券や土地・家屋・物品など、経済的に価値のあるもの。資産。[表現] 金銭に換算できるものばかりでなく、精神的価値の高いものについても使う。例 健康が私の～だ。(『明鏡』)

である。これと対応する中国語の“财产”は、

指所有的财富、包括物质财富(金钱、物资、房屋、土地等)和精神财富(专利、商标、著作权等。例 国家～。私人～。(《现汉》)

国家、集体或个人所所有的有形财富(如金钱、房屋、土地)和无形财富(如著作权、专利权、商标权)的总和。(《规范》)

(属于国家、集体或个人)的物质财富。例 公民的合法～受法律保护。(《应用》)

となる。『新明解』と『ベネッセ』『明鏡』の①と中国語辞書との記述はだいたい同じである。『ベネッセ』『明鏡』の②については、①の比喩的な用法と見なしてよいと思う。中国の辞書にこういう使い方は書いてないが、“财产”を比喩的にこのように使ってもおかしくはない。

しかし、百パーセント同じだとは言えないと思う。例えば、「財産」を使って、「全財産」「財産家」など複合語を作ることがあるが、中国語にはそれと対応している言葉はないようである。

構造も同じ、文法的意味も同じ日中同形語でも、語彙の意味が簡単には対応しないものもある

日中同形語でさえあれば、前項のタイプなら、学習に便利であるが、しかし、全てがそうではない。むしろ、逆の場合が多いようである。すなわち、重なっている部分もあれば、異なる部分もある日中同形語が、数量的にはもっと多い。例えば、日本語の「医学」「医科」は中国語の“医学”“医科”と同義と見てよいが、「看病」「医院」と“看病”“医院”はそうではないのである。

日本語の「看病」は、

病人やけが人に付き添って世話をすること。〔例〕徹夜で母を～する。〔『ベネッセ』〕

病人に付き添って世話をすること。〔例〕つきっきりで～する。～疲れ。〔『明鏡』〕

病人の世話をすること。看護。〔『新明解』〕

であるが、中国語の“看病”は、

①（医生）给人或动物治病。〔例〕王大夫不在家，他给人～去了。②找医生治病，就诊。〔例〕我下午到医院～去。〔《现汉》〕

①（医生）给病人诊治疾病。〔例〕大夫在给病人～。②（病人）找医生诊治疾病。〔例〕明天我去医院～。〔《规范》〕

①（医生）给病人治病。〔例〕李大夫给人～可仔细了。他就是给我看过病的王大夫。②（病人）找医生治病，就诊。〔例〕我请个假去～。我头疼，得～去。看完病还去上班。〔《应用》〕

となる。要するに、「看病」の「看」は「見守る、世話する」の意味で、「病」は「病人」に相当するもので、「看」と「病」は動詞と目的語の関係になる。「看病」の“看”と“病”も、同じく動詞と目的語の関係になっているが、“病”は「病気」のことで、“看”は「診断・治療」をするかしてもらうことに当たる。日本語と中国語の文法的意味は同じであるが、語を構成する意味素の意味は違うから、語全体がどんなことを指すかが変わってきたわけである。

日本語の「医院」は、

医師の個人経営で、病人やけが人を診察・治療する所。診療所。〔『ベネッセ』〕

医師が個人的に経営し、病気を診察・治療する所。診療所。クリニック。〔『明鏡』〕

個人の開業医が経営する診療所（に付ける名称）〔ベッド数20以上は「病院」。19以下もしくは0は「診療所」という〕〔『新明解』〕

という意味であるが、中国語の“医院”には違うところがある。

治疗和护理病人的机构，也兼做健康检查、疾病预防等工作。〔《现汉》〕

以诊断、治疗和护理病人为主要任务，并设有住院病房的医疗机构。也兼

做健康检查、疾病预防等工作。（《规范》）

治疗和护理病人，也兼做健康检查、疾病预防等工作的机构。按业务性质，一般分为综合医院、专科医院和特种医院等。（《应用》）

一つはベッド数が診療所の類ではないこと、もう一つは経営者は医師個人を限定しないことが違うところである。

日本の「医療法」によれば、「病院」とは、医師又は歯科医師が、公衆又は特定多数人のため医業又は歯科医業を行う場所であって、二十人以上の患者を入院させるための施設を有するものをいう。また「診療所」とは、医師又は歯科医師が、公衆又は特定多数人のため医業又は歯科医業を行う場所であって、患者を入院させるための施設を有しないもの又は十九人以下の患者を入院させるための施設を有するものをいう。

これに対して、中国では、《医院分级管理标准》と《诊所基本标准》によれば、“凡以“医院”命名的医疗机构，住院床位总数应在20张以上”（「医院」と名付けられる医療機関は入院部ベッドを20以上有するべきである）、“诊所是为患者提供门诊诊断和治疗的医疗机构，不设病床（产床），只提供易于诊断的常见病和多发病的诊疗服务”（診療所は患者に外来診察と治療を与える医療機関で、ベッドを持たずに、診断しやすい普通の疾病、多発性の疾病だけに対して、診療サービスを提供する）となるから、日本語の「医院」は中国語の“诊所”に当たって、日本語の「病院」は中国語の“医院”に対応する。

日本語の「高校」、中国語の“高校”、どれも「高等学校」の略であるが、「高等学校」と“高等学校”が指すものは同じだろうか。「高等学校」は、

中学校教育の上の段階に置かれ、高等普通教育、または専門教育を施す学校。高校。（『ベネッセ』）

中学校卒業者に高等普通教育および専門教育を施す学校。修業年限は三年。高校。（『明鏡』）

中学校卒業後にさらに上級の普通（専門）教育を行う学校。学習年限は三年。高校。（旧制についての解説を略す）（『新明解』）

になるが、中国語の“高等学校”“高校”は、

大学、专门学院和高等专科学校的统称。简称高校。（《现汉》）

实施高等教育的学校，包括大学、专门学院和专科学校。简称高校。（《规范》）

大学、专门学院和高等专科学校等实施高等教育的学校。简称高校。（《应用》）

となって、「大学」「高等専門学校」などに対応しているわけである。

以上のように、語構成の構造も語の文法的意味も同じであっても、両国の制度が違うこと、語を構成する意味素の指すものが違うこと、などによって、語彙の意味は簡単には対応しないことがある。

構造も同じ、文法的意味も同じ日中同形語でも、語義項目は単純な
一対一の関係でないものが多い

一つの単語に、ただ一つの意味しかない場合もあるが、複数の意味を持っていることが多い。複数の意味の中には、歴史的に考えれば源となる本来の意味もあれば、派生、展開、比喩、具体化、抽象化などを通して、出来上がった意味もある。辞書では、これらのものを順序付けて並べるだけで、その関係をはっきり書かないのがふつうである。

日中同形語の場合、片方は本来の意味しか持っていないが、片方は派生などによる語義項目をいくつか持っていることもある。また、日本語も中国語もいくつかの語彙項目を持っているが、派生や展開の方法・ルートが違うため、出来上がった語義項目が同じではないこともある。

日本語の「生理」と中国語の“生理”を比べてみよう。

①生物が生きてゆくための体の働き、またその働きの原理。例 深海魚の～を研究する。～現象。～学。②「月経」の別の呼び名。例～休暇。～痛。（『ベネッセ』）

①生きて活動する生物体に生じる諸現象や、生命を維持するための諸機能。またその原理。例～作用。②月経。メンス。（『明鏡』）

①生きていることに伴うからだの働き。例～現象。②月経。例～休暇。

～用品。(子見出しを略す) (『新明解』)

中国語の“生理”は、

机体的生命活动和体内各器官的功能。例～学。～特点。(《现汉》)

生物机体的各种机能，即整个生物体及其各个部分所表现的各种生命活动。例～现象。～卫生。(《规范》)

生物体的生命活动和体内各器官的机能。例不受～条件的限制。照顾妇女的～特点。不要讥笑人家～上的缺陷。(《应用》)

となって、二者の差異ははっきりしている。「生理」は女性の生理現象の一つを特定して、語義項目を一つ増やしているが、中国語の“生理”にはこういうことが生じていない。

もう一つよく使う語を例にして見てみよう。日本語の「教室」は、

①(学校などで) 学問・技芸を教える部屋。例一年生の～。②大学の専攻科目ごとの研究室。例担当教授の～に所属する。③学校の授業などをまねて人々を集めて技芸などを教える所。例ピアノ～。(『ベネッセ』)

①学校などで授業を行う部屋。例大～。②大学で、専攻科目ごとの研究組織。例日本文学～。③技芸・技能・知識などを教える所。また、その組織。例書道～。料理～。(『明鏡』)

①A学校で、授業を行うための部屋。例音楽～。階段～。B希望者をつのり教養を身につけさせたり技芸を修得させたりするための催し(会場)。例カルチャー～。生け花～。②[大学などで] 一専攻科目を単位とした研究室。例数学～。(『新明解』)

となるが、これと中国語の“教室”を比べてみよう。中国語では、学校里进行教学的房间。(《现汉》)

学校里专供上课用的房间。(《规范》)

学校里进行教学活动的房间。例上课铃响了，赶快进～。(《应用》)

となる。『新明解』の①のAを①、①のBを③と見なすと、日本語の「教室」は語義項目を三つも持っているのに対して、中国語の“教室”は語義項目を一つしか持っていないのである。この差異に気を付けなければ、「ピアノ教

室」を見たら「学校でピアノ（あるいは音楽など）の授業を行うためにピアノを置いてある教室」と理解してしまうだろう。

日本語の「消毒」は、意味が割合単純である。

薬品・熱などを使って病原菌を殺すこと。〔例〕手を～する。（『ベネッセ』）
感染を予防するため、薬品・高熱・紫外線などによって病原菌を殺すこと。〔例〕傷口を～する。～薬。（『明鏡』）

薬品や（太陽の）熱で、病原菌を殺したり繁殖を防ぐこと。〔例〕アルコールで傷口を～する。～薬。～剤。日光～。（『新明解』）

しかし、中国語の“消毒”は、この意味を持っていると同時に、ここから生じた比喩的な意味も持っている。

①用物理、化学、生物等方法杀灭或清除致病的微生物。〔例〕～剤。病房已经消过毒了。②清除流毒。（《现汉》）

①用物理、化学或生物学等方法杀灭或清除病原体，以防止人、畜疾病和植物病害的传染。〔例〕～处理。②比喻清除坏影响。（《规范》）

①用蒸煮、阳光暴晒或化学药品杀死能致病的微生物。〔例〕用酒精～。消了毒再用。②比喻清除有害的东西。（《应用》）

おわりに

日中同形語を学習するとき、また教えるとき、ただAはBと同じ、あるいはAはBと違うことだけを覚える（教える）だけでは十分ではないと思う。以上のように、具体的に分析した上で、タイプ別に覚えたほうが効率的であろう。つまり、次の順で覚える（教える）ことを薦める。

- ・語構成は同じかどうかを明確にしよう。
- ・文法的意味は同じかどうかを把握しておこう。
- ・日本語と中国語とを照らし合わせて、完全に対応するかどうかを確認しよう。
- ・語義項目は一对多数の場合、どちらが別義を持っているか、追求しよう。

このようにしていけば、学習も面白くなり、覚えた知識もしっかりしたものとなるに違いない。

顧令儀 Gu Lingyi 博士（学術） 西安交通大学人文学部専任講師 専門：東アジア地域文化